

季節の山野草

春から初夏は、山野草が多く見られる季節です。田舎のまわりで見られる野草をいくつか紹介します。散歩のついでに見つけてみてはいかがでしょうか？

タチカタバミ
4月から7月に咲く

アカバナユウゲシヨウ ▼ アカバナ科 夕方に花開くから名付けられた

単にユウゲシヨウともいいます。夕方に開花することからこの名前がついていますが、実際は昼間から咲いていることが多いです。最初は観賞用としてアメリカから渡ってきたものですが、現在は関東以西に自生しています。中には白い花を咲かせるものもありますが、種類はおなじアカバナユウゲシヨウです。花



オオキンケイギク ▼ キク科
持ち帰りは禁物特定外来種
日本には120年以上前に観賞用として持ち込まれました。繁殖力が非常に強く、どんな荒地でも繁殖できます。葉は細いヘラ状で、直径5〜7センチほどのコスモスに似た形の黄色い花を咲かせます。本種は特定外来生物に指定されていますので、持ち帰って栽培することはできません。注意してください。



が終わると実が付き、熟すと弾けて種が散布されます。



ヒメジヨオン ▼ キク科
線路脇でよく見られる花
ハルジオンによく似た白い花です。ふたつの違いは、ヒメジヨオンの茎を折ると中には空洞がありません。また、空気のきれいな場所では、やや紫かった花になることもあります。



ムラサキサギゴケ ▼ ハエドクソウ科
日当たりの良い場所に生える多年草
花の形が鳥のサギに似ていることから付けられた和名です。単にサギゴケと呼ばれることもあります。コケと名が付いていますが苔の仲間ではなくハエドクソウ科の植物です。地面を這うように横枝を出す様子が苔のように見えたことが名前の由来でしょう。春から初夏にかけて薄い紫色の花をつけます。

これで散歩が
楽しくなる
四季の野草図鑑

静岡大学農学部教授
稲垣栄洋監修

ISBN 978-4-86545-803-9
定価：1210円（税10%）



トウダイグサ ▼ トウダイグサ科
燭台のような珍しい花
特徴的な葉の付け方をする野草です。葉の大きさは1〜3センチほどのへら状をしています。上の方にある5枚の葉が花を包むようにお椀状になっているのが目付きです。これが燭台の受け皿に見えたといわれます。花は黄色ですが、その葉の中に小さく咲いためほとんど目立ちません。この野草には毒がありますので誤って口に入れないようにしてください。

